

【全体概要】県内の多くを占める山間部は農業には不利であるが、標高の高い山間地の夏季冷涼な気候を生かした新たな品目導入の可能性はある。県外山間部において夏どりイチゴの産地が増えつつあり、本県において、四季成り性イチゴをもちいた近畿で希少な夏どりイチゴの産地化を図った。

※四季成り性イチゴ：年中花芽分化が可能であり、夏場も収穫が可能な品種

新品種・新技術等の概要

「四季成り性イチゴの生産技術の導入」

- 普及状況：県内では、四季成り性イチゴの栽培は行われていない。全国的にも栽培は夏季に冷涼な気候の北海道、東北地方及びその他地域の山間地に限られている。
- 奈良県天川村（標高800m）で下記の主要品種を試作し、当地に適合した品種を選定し、その産地化を進めている。
 - ①夏の輝（九州・沖縄農業研究センター）
 - ②デコルージュ（東北農業研究センター）
 - ③信大BS8－9（信州大学）
 - ④すずあかね（ホクサン株式会社）
 - ⑤ベチカ（株）ホープ
 - ⑥サマールビー（有）ミカモフレック



定植（4月）



収穫開始（6月～）

主な取組内容

【品種の特性把握】

- 実証展示圃を設置し、6品種の栽培適性を評価
- 温室内環境遠隔モニタリングシステムを導入し、ハウス内環境の情報収集を実施

【産地・実需者の意向・ニーズ等の調査】

- 実需者を対象に販売を希望する品種や果実品質、果実重量、出荷方法等について意向調査
- 県外主要産地の導入品種等の事例調査

【検討会の開催】

- 県研究機関等による安定生産の指導
- 生産者と実需者を交えた試食会の実施

【栽培マニュアルの作成】

- 試験栽培を踏まえ特性をとりまとめたマニュアル作成

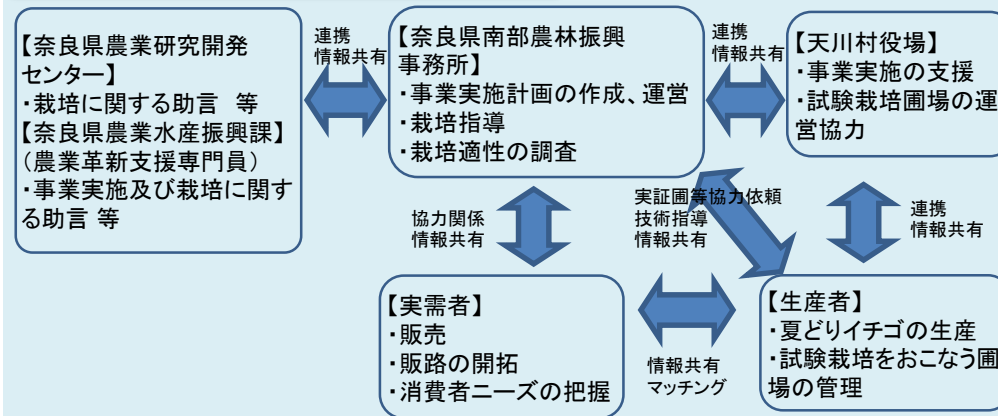


実需者との意見交換会



村主催による試食会

実施体制図



実績と今後の対応

- 6品種の中から品質に優れる「信大BS8－9」を選定
- モニタリングシステムにより、ハウス内の管理の省力化
- 栽培マニュアルを作成
- 令和2年は10aに栽培を拡大
- 「洞川夏いちご」で販売
- ブランド力向上に向け、高品質な夏どりイチゴを生産する栽培管理の方法を引き続き検討。
- 収量向上のため、内張りカーテンや簡易暖房を取り入れ収穫期間を延長する等、栽培環境設備に関して助言
- 消費者ニーズに関する情報収集に努め、販売先を拡大



次年度の栽培に向けての検討会議